

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品

製品名 スパークスG

整理番号 SPL SS-2

供給者情報

会社名 株式会社島田商店

住所 東京都墨田区東向島 2 - 4 0 - 3

電話番号 03-3613-1328

FAX番号 03-3614-6374

緊急連絡先 090-2337-3889

メールアドレス info@shimada-shoten.co.jp

2. 危険有害性の要約 (原料20%液として)

GHS分類

物理化学的危険性 : 分類対象外、分類できない、または分類されない。

健康に対する有害性 : 急性毒性(経口) : 分類5

皮膚腐食性/刺激性 : 分類2

目に対する重篤な損傷/眼刺激性 : 区分2A

感作性・皮膚 : 区分1

特定標的臓器毒性(単回暴露) : 区分3 (呼吸器刺激)

環境に対する有害性 : 水生環境・急性有害性 : 区分1

水生環境・慢性有害性 : 区分1

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : 飲み込むと有害の恐れ (H303)
皮膚刺激性 (H315)
強い眼刺激 (H319)
アレルギー性皮膚反応を起こす恐れ (H317)
呼吸器への刺激の恐れ (H335)
水生生物に非常に強い毒性 (H400)
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性 (H410)

注意書き : [安全対策]
ミス/トスプレーの吸入を避けること。(P261)
取扱後、皮膚を良く洗うこと。(P264)
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)

環境への放出を避けること。(P273)

[応急処置]

気分が悪い時は医師に連絡すること。(P312)

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+340)

皮膚に付いた場合：多量の水で洗うこと。(P302+352)

皮膚刺激または発疹が生じた場合は医師の診断/手当てを受けること。(P333+313)

汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。(P363)

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。

次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+351+338)

眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。(P337+313)

漏出物を回収すること。(P391)

[保管]

施錠して保管すること。(P405)

[廃棄]

内容物/容器の廃棄は都道府県知事の許可を受けた専門廃棄物業者に委託すること。(P501)

3. 組成、成分情報

単品製品・混合物の区別：単一製品（下記の水溶液）

成分	C A S N o .	官報公示整理番号	含有量 (w t %)
Polyhexamethylene biguanide Hydrochloride	27083-27-8	(7) -1729 + (1) -215	非公開
水	—	—	計 1 0 0

危険有害成分：Polyhexamethylenebiguanide Hydrochloride（略称 P H M B）飲み込むと有害。皮膚を刺激する。眼に重大な障害のリスク。皮膚と接触すると感作を引き起こす恐れがある。水生生物に猛毒性、水生環境で長期の悪影響を及ぼす恐れがある。ただし水中に投入し規定使用濃度下ではEPA（米国環境局）にて安全性承認取得済みで皮膚等への刺激は認められない。上記有害成分に関しては原体（20%品）に対するものである。

4. 応急処置

- 吸入した場合：被害者を空気の新鮮な場所に移す。異常が認められる場合、速やかに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合：使用濃度では問題はないが、念のため製品に触れた皮膚部分を水で洗い流す。汚染された衣類・靴等は再使用前に必ず洗濯して使用のこと。
- 目に入った場合：原体が入った場合直ちに清浄な流水で15分以上洗眼する。洗眼の際には、まぶたを広げて十分に洗い流す。洗眼を続け、速やかに医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合：口内を水で洗浄し、コップ1～2杯の水を飲ませる。無理に吐かせぬこと。速やかに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤：水噴霧、泡、二酸化炭素、乾燥粉末等。
- 特定の危険有害性：可燃性ではないが、燃焼・熱分解により有毒・刺激性

- 消火を行う者の保護 : のフュームを発生する可能性あり。(原体)
: 自給式呼吸器を含む、適切な保護具を着用。
6. 漏出時の措置 : 適切な保護具・保護衣を着用して作業する。
人体に対する注意事項 : 水路、河川等への流出を防ぐこと。
環境に対する注意事項 : 砂・土・おがくず・吸収材等に吸収させて、適切な廃棄
除去方法 : 用の容器に回収する。大量の場合は、盛り土等で困って流
出を防止した上で、回収作業を実施する。
漏出面を良く洗浄し、洗浄水は必ず漏出物同様に回収する
こと。
7. 取扱い及び保管上の注意
取り扱い : 使用濃度での取り扱いは、保護手袋・安全ゴーグル等の
保護具を着用する必要はない。霧・蒸気を吸入しないよう
簡易マスクを着用する。エアゾルを生じないように注意する。
保管 : 元の容器にそのまま貯蔵する。容器は十分密閉する。
容器包装材料 : 適切な容器 : ステンレス、ポリエチレン
不適切な容器 : 軟鉄、銅、アルミニウム、亜鉛
8. 暴露防止および保護措置
設備対策 : 十分な局所排気設備の設置、あるいは設備の密閉化。
保護具 : 呼吸用保護具 簡易マスクを推奨
保護手袋 切り傷等ない場合は必要なし
保護眼鏡 直接点滴しないよう注意。ほか必要なし。
保護衣 必要なし。
衛生対策 : 飲食禁止
9. 物理的及び化学的性質 (20%原液として)
外 観 : 無色～淡黄色の液体
臭 い : なし
p h : 6.8～7.2(使用時希釈後濃度)
融 点 : 約0℃
沸 点 : 約102℃
引火点 : 引火せず沸騰
密 度 : 約1.04 (25℃) (20%原料)
粘 度 : 約5 mPa·s (25℃ (20%原料)
対水 ; 相溶
溶解性 : 対防媒 : 脂肪族アルコール類、グリコール類、グリコール
エーテル類に可溶。脂肪族、芳香族炭化水素系溶媒に不溶。
10. 安定性及び反応性
安定性 : 避けるべき条件 ; 特に知られていない
危険な反応 : 避けるべき材料 ; 特に知られていない
危険有害な分解生成物 : 高温分解時、燃焼時に有害、刺激性のガスを生じる。
11. 有害性情報 (原体)
急性経口毒性 : LD₅₀ > 2000 mg/kg (ラット) (20%液)
経口毒性は低いが、摂取すると胃腸気管系が刺激を受ける
可能性がある。

眼刺激性	: 使用濃度ではなし。原体（90%以上）で刺激性。
皮膚刺激性	: 使用濃度ではなし。但し繰返しや長時間の接触により軽い刺激を感じる可能性。
皮膚感作性	: 使用濃度ではなし。但し原体（90%以上）は感作の可能性あり。
吸入による影響	: ペーパー、エアロゾルを生じた場合、眼、鼻、呼吸器に刺激を生じる可能性がある。（高濃度時）
特定の影響	: 動物試験の結果から、人に対して発ガン性、催奇形性のリスクを持たないと考えられる。

1 2. 環境影響情報（20%原体）

水棲生物に有毒。水生環境中で長期の悪影響を及ぼす恐れがある。	
易動度	: 本製品は水に相溶する。土壌、底性堆積物中の易動度は低い。
分解性	: 難分解性。水中での光分解を示唆する結果は得られていない。
生態蓄積性	: 低蓄積性
水棲生物に	: 96hrsLC ₅₀ < 1mg/l（ニジマス）
対する毒性(20%)	96hrsLC ₅₀ = 0.65~0.9mg/l（ブルーギル） 48hrsEC ₅₀ = 0.18~0.45mg/l（ミジンコ） 活性汚泥への影響；無影響濃度（NOEC）= 0.5%（対固形分）
水環境中からの除去	: 陽イオン性物質は排水処理設備において吸着、錯形成等により効果的に除去されるものと考えられる。

1 3. 廃棄上の注意

廃棄方法	: 法令に従い処分する。外部業者に廃棄を委託する場合、都道府県等の許可を受けた産業廃棄物処理業者により、関連法規を遵守して適切に廃棄されるよう留意する。 水棲生物に対して毒性が非常に高い点に注意が必要。
------	--

1 4. 輸送上の注意（20%原体）

運搬に際しては、容器に漏れの無いことを確認し、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。運搬時に高温・水漏れのないよう注意する。	
UN No. 品目名	: 3082、その他の環境有害物質（液体）
IMDG	: クラス9、容器等級Ⅲ、海洋汚染物質（P）
ICAO/IATA	: クラス9、容器等級Ⅲ

1 5. 適用法令

国内の化学品に対する主たる法規上の何れの規制にも該当しない。

1 6. その他の情報

- 「製品安全データシート」は、当社製品をより安全にご使用いただくための注意事項等を簡潔にまとめたもので、通常の手配を前提としたものです。現在までの見地によるために情報の完全性を保証するものではなく、随時改訂をすることがあります。
- 「製品安全データシート」に記載された情報は、製品の規格仕様や品質を保証するものではありません。
- 本製品の使用条件は、「製品安全データシート」等をご参照の上、使用者の責任においてご検討下さい。
- 参考文献
UN ST/SG/AC.10/30/Rev.2、UN ST/SG/AC.10/34/Addendum3、GHS関連省庁連絡会議GHS分類マニュアル[H18.2.10版]及び技術上の指針（平成18年02.15公表版）
化学品法規制検索システム（2008年Web版）

5. MSDSの作成及び改定

2005年8月 作成
2006年12月 改定
2011年5月 改定
2014年5月 改定